



21世紀社会には、新たな学問体系が求められています。古代・中世以来、佐賀はアジア各国との個性豊かな交流関係を築きあげ、近世にはヨーロッパとの積極的な文化的接触を図り、19世紀後半になると、近代西欧文明・学問体系を先進受容しました。それがどのような歴史文化を基盤としていたのか、また定着し展開したのかは、現在問われるべき重要な課題です。本センターは地域（佐賀）の固有性と普遍性を探究し、新たな学問体系としての地域学を創造します。考古学、国文・文献学、洋学・思想史、地域史・史料学の4研究部門に専任・併任教員を配置し、地域住民・市民と大学との地域連携の学術センターとして社会への貢献を目指します。



センターでは、佐賀大学所蔵の歴史資料の活用をすすめるため、以下のデータベースを運用・公開しています。

- 小城藩日記データベース・・・佐賀藩の分家・小城藩で作成された「小城藩日記」（政務記録用）について、江戸時代に作成された記事目録をもとに事項検索・画像閲覧ができます。
- 佐賀藩関係「日記」資料データベース・・・上記「小城藩日記」以外の小城藩関係の「日記」資料（諸役所の記録）のほか、佐賀県立図書館所蔵蓮池鍋島文庫の「蓮池藩請役所日記」について、同一年月日の各「日記」資料の画像を簡単に閲覧できます。
- 近世医学書データベース・・・センターで収集したおもに近世期の医学書について、検索・画像閲覧ができます。

所蔵資料

佐賀県関係古文書 421点

近世・近代医学書 301点

佐賀県関係図書 約300冊

研究書・資料集など 約1800冊

佐賀大学蔵『解体新書』について



解体新書本文・序図表紙



男女の図

佐賀大学は、平成23年3月に『解体新書』の実物を入手しました。『解体新書』は、ドイツの医師クルムスの解剖書の蘭訳本（通称：ターフェル・アナトミア）を、杉田玄白や前野良沢らが苦勞して日本語に翻訳して、安永3年（1774）に『解体新書』として出版したものです。それまでの漢方医学における五臓六腑説という人体観を完全否定し、西洋医学解剖学の正確さを我が国に伝え、以後の西洋医学の普及と我が国近代医学の発展につながった画期的な書です。

本文編巻1から4巻（95丁）の合本1冊と序図（図版・36丁）1冊の2冊本の体裁となっており、本書を読み解くことで、医学のみならず、真理探究の志をもった先学の志に触れることができます。なお、本書の原蔵者は佐賀地域の江戸時代医師と考えられ、随所に見られる書き込みなどから当地域への西洋医学の普及の手がかりを得ることもできます。